

令和元・2年度 大島地区研究協力校「人権教育」 令和2年11月10日(火)

宇検村立久志小中学校公開研究会

研究主題 「みつめよう つなげよう みんなの心」

～ 児童生徒が自分らしく生きるための人権教育 ～

研究の仮説及び視点

【仮説1】

地域の実態や様々な人権課題を含む教材について調べたり思考したりすれば、物事を多面的・多角的にみつめたり、ふるさとへの愛着やふるさとを誇れる心が育まれたりするのではないか。

→知ることで、もっと大切にしたい

ふるさと

視点：人権を考える教材を活用した実践

ア 奄美に関する教材の活用

イ 人権課題に関する教材の活用

【仮説2】

学校行事や日常の授業など、お互いのよさや可能性を自他共に認め合う学習活動を創造し磨き合えば、自己実現に向けて、思いを伝え合える人間関係ができるのではないかな。

→知ることで、もっと大切にしたい

自分とあなたと未来

視点：自他共に認め合う仲間づくりによる実践

ア 自他を認め合う取組

イ 仲間づくりの取組

ウ 自己決定から自己実現に向けた取組

【仮説3】

児童生徒・教職員集団が人権感覚を高め、児童生徒が安心して過ごせる学習環境を構築すれば、児童生徒が自分らしく学習活動に取り組むことができるのではないかな。

→大切にしたい、わたしたちの居場所

視点：人権感覚と自尊感情を育む環境づくり

による実践

ア 授業や行事を通じた取組

イ 保護者・地域と連携した取組

ウ 教職員の人権意識を高める取組

研究の実際

《 仮説1 》

人権を考える教材を活用した実践



ア 奄美の民話や自然、ふるさとで生きる人々について考える授業実践

イ ハンセン病問題や北朝鮮拉致問題などの人権課題について学ぶ授業実践

《 仮説2 》

自他共に認め合う仲間づくりによる実践



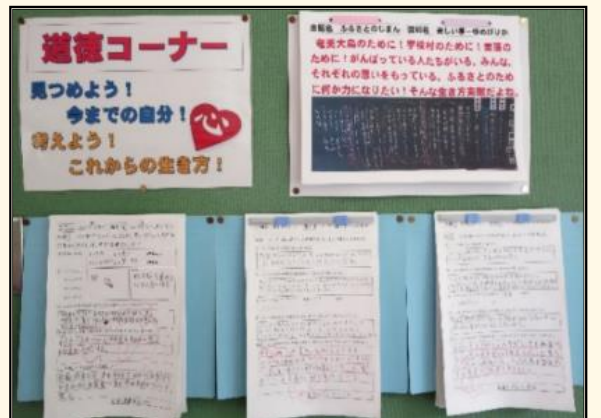
ア 身近な人権問題を話し合う「ゆいタイム」

イ 児童生徒会が主体となった「長縄エイトマン」

ウ 思いを言語化する「朝のスピーチ」や自主的・対話的活動を発信する委員会活動

《 仮説3 》

人権感覚と自尊感情を育む環境づくりによる実践



ア 人権コーナーや道徳コーナーの設置、人権に関する「テーマ日記」の取組

イ 人権だよりの発行や家庭教育学級での研修
ウ 職員による人権アンケートの実施

公開授業及び分科会の様子

公開授業



小学1・2年



小学3・4年

分科会



小学5年



中学1・2年

公開研究会に参加された先生方より

- 学校全体で日々の学校生活を通して人権意識を高める取組がなされていた。学校に持ち帰ってぜひ取り組みたい。
- 歴史を昔話にせず、人間が人間らしく生きる姿、自然とともに力強く生きている姿を焦点化することで、児童生徒が「時代を生き、未来をつくる自分」として誇り高く生きていく糧になることと思う。
- 小中併設のよさを生かし、系統性・連続性のある人権教育が大変参考になった。
- 総合的な学習の時間を利用して、年間を通して人権教育が行える指導計画を作成していることが参考になった。
- 分科会で、各学校の実践を聞くことができ、大変勉強になった。
- 「郷土を大切にすれば自分にも誇りをもつことができる」ということが改めて分かった。